慶應義塾医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話番号(3353)1211(大代表)
信濃町駅前・各種診療

平成21年度 入学式

医学部一一一名が入学

日吉記念館で行われる入学式は本年が最後となる

「学問の感動」
「体験する感動」
「自己発見の感動」
――安西塾長

平成二十一年度慶應義塾大学入学式が四月三日、日吉記念館にて行われた。

式典は午前十時定刻に開式し、学事報告、式辞、学部長紹介、教職員代表祝辞、塾員代表祝辞、新入生代表入学の辞、塾歌斉唱と続き、最後の卒業五十年記念三田会代表挨拶・寄付目録贈呈をもって式は滞りなく終了した。

入学式当日は春を実感させる見事な快晴であり、義塾が新入生を迎えるに相応しい日和となった。

式典の冒頭に行われた学事報告では、西村秋良常任理事による学部の入学者数報告がなされた。本年度の入学者総数は六八九五名。うち医学部二一一名、看護医療学部二三名、薬学部二九名であった。医学部入学者は前年に比べ一〇名の増加員である。外部からの入学者が六九名、義塾内部からの入学者が四二名であるとの報告もなされた。

式辞では安西塾長が、慶應義塾の歴史について触れ、義塾の伝統である独立自尊の精神を新入生はぜひ身につけて欲しい旨述べた。また安西塾長は新入生に向け、義塾の「我れ古を作す」の言葉を挙げ、革新への挑戦をすることの重要性を説いた。

さらに式典の最後に、新入生代表入学の辞として理工学部の松林慶一君が、入学にあたっての決意を力強く述べた。

（五年　林信大朗）

入学の辞を述べる松林慶一君

速報 新塾長に清家商学部長

――注目される新病棟建設計画の今後――

安西祐一郎塾長の任期満了日五月二十七日を控え、次期塾長候補選出のため、選出規定による選考が行われていた、四月二十一日の塾長候補銓衡委員会により最終候補者として、清家　篤（せいけ・あつし）商学部長が選定され、四月二十四日に開かれた臨時評議員会で新塾長として選任された。

四月十九日には第二次次期塾長候補者推薦委員会が開かれ、塾内十部門から選出された第一次候補者十名の中から、部門の代表者約四百五十名が三完全連記による第一回投票で五名を選出した。その選出者について第二回投票で、三名以内連記あるいは単記による第二回投票で、清家商学部長、国分法学部長、細田元経済学部長の三名が第二次塾長候補者として選出された。

さらに塾長候補銓衡委員会（塾評議員、各学部長、学外評議員などで構成）が四月二十二日に開催され、三名のうちから最終候補者として清家商学部長が選定された。この程修了（商学博士）。商学者は前年に比べ一〇名の増加員である。外部からの入学者が六九名、義塾内部からの入学者が四二名であるとの報告もなされた。

式辞では安西祐一郎塾長が慶應義塾の歴史について触れ、義塾の伝統である独立自尊の精神を新入生はぜひ身につけて欲しい旨述べた。また安西塾長は新入生に向け、義塾の「我れ古を作す」の言葉を挙げ、革新への挑戦をすることの重要性を説いた。

さらに式典の最後に、新入生代表入学の辞として理工学部の松林慶一君が、入学にあたっての決意を力強く述べた。

（五年　林信大朗）

清家　篤（せいけ・あつし）

一九五四年東京生まれ。一九七八年慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院商学研究科博士課程修了（商学博士）。商学部助教授を経て、一九九二年より教授。専門は労働経済学・高齢社会論。

ランド研究所研究員、日本労働研究機構特別研究員、経済企画庁（現・内閣府）経済研究所客員主任研究員を歴任。著書「高齢者の労働経済学」（日本経済新聞社）では、義塾賞を受賞している。

自衣式挙行される

去る三月二十八日（土曜日）二時から第四回白衣式が厳かな中にも和やかに執り行われた。

平成十八年度に白衣式の創始者である米国コロンビア大学教授のアーノルド・P・ゴールド氏夫妻をご招待し、第一回白衣賞受賞者による学内ギャンピスツアーが行われたが、年々参加される御父兄が増えており、白衣式が執り行われた北里講堂は一階席まで埋め尽くされた。用意したパンフレット三部が無くなるほどであったので、実際の参加者はそれ以上に思われる。

白衣式の式典では末松誠医学部長、戸川芳昭病院長、鈴木則宏発後臨床研修センター長、天野隆弘医学教育統轄センター長の挨拶に続き、ゲストスピーカーで、実際に白衣式の紹介をしたメネソタ大学医学部のクレゴリー・A・プロトニコフ先生（本学医学部助間准教授）から日本語で祝辞を頂戴した。プロトニコフ先生は医学教育におけるプロフェッショナリズムの重要性をいろいろ教えてくれた人で、今では本学は、この分野においてが国のリーダー的役割を果たしており、おいでお話された比企能樹医学部長は、「誓いの言葉」を全員で唱えた。これはプロフェッショナリズム教育の一環として、一年間かけて学生が作成するものである。

本年度から開始された「贈医賞」は、勉学だけでなく、幅広く社会活動をした学生に与えられ、三四会長からは、プロトニコフ先生の日本語でのスピーチに対して賞賛の辞が送られた。

医学部長はじめ、医学部・病院の執行部の先生方が、学生一人一人に白衣を着せていくハイライトでは、見守る参列者からも大きな拍手が寄せられた。

続いて90回生が自分たちで作った「誓いの言葉」を継続し、更なる国際貢献に努めていきたいと思います。

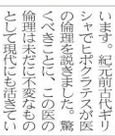
最後は全員で北里講堂前の前で記念撮影をして、閉会となった。

本学に習い白衣式を行う医学部が増える中、今後も模範となるような伝統を作っていけることを期待する。

（渡辺賢治　63回）

慶應医学を学ぶ諸君へ

三四会会長　比企　能樹



ご入学を心よりお祝い申します。さぞ厳しい困難を排し、かつ難を突なすべきこと、医学とは何だという回答になるかもさぞ苦しく思っておいでのことでしょう。

一世紀の昔、この医学部を作られた福澤諭吉先生や北里柴三郎先生のご意思を継ぐ人々として、君たちは選ばれてこれから慶應医学を学ばれまいちょっと横に置いて、さて医学とは何であろうかと、考えて頂きたいと思います。紀元前古代ギリシャでヒポクラテスが医の倫理を説きました。驚くべきことに、この医の倫理は未だに不変なものとして現代にも活きているのです。そこに書かれた一つ一つを読んでみることです。君たちが今から成すべきこと、医学とは何であるかを知れます。

先ず、「医の実践を志さん」。全生涯を人道に捧げる」とありますが、その覚悟はできていますか。

様々な医療事故やトラブルが社会的問題となっている現在、全ての医療者が「良心と厳粛をもって医学を実践する」心構えを以って日々医療に当れば、医を行う人とその医学の倫理を説きました。驚くべきことに、この医の倫理は未だに不変なものとして現代にも活きているのです。そこに書かれた一つ一つを読んでみることです。君たちが今から成すべきこと、医学とは何であるかを知れます。

「患者の秘密を厳守する」などの文言を実行する義務が全ての医療者に課せられています。また、医の学問と治療に「人間の生命を尊ぶ」ということは、絶対の根源、基本であることを、決して忘れないで下さいと、「医の実践を志さん」の最後で、医学を学ばれました。そこで一人のために活し、この人のために活きる医学の本髄」というドイツの内科医フーフェランドの言葉「扶氏戒」という額を、日々見ながら学んだそうです。医学部を卒業して、福澤先生は慶應義塾の医学部生に、この事を要求されたのではないかと思います。

以上難しいことは頭の隅に置いて頂くとして、めでたく入学されたのですから、大学生活を楽しむことです。勉強ばかりでなく、スポーツに健全なる遊びにそれぞれ打ちこむことが、若さの特権であると思います。

運動やりすぎて勉強が出来なかったというのは、単なるエクスキューズに過ぎません。一つに集中すると、もう一つに悩まされる。二兎追いかけるとなる。

「人間の生命を尊ぶ」ということは、絶対の根源、基本であることを、決して忘れないで下さいと、「医の実践を志さん」の最後で、医学を学ばれました。そこで一人のために活し、この人のために活きる医学の本髄」というドイツの内科医フーフェランドの言葉「扶氏戒」という額を、日々見ながら学んだそうです。医学部を卒業して、福澤先生は慶應義塾の医学部生に、この事を要求されたのではないかと思います。

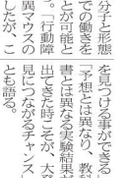
以上難しいことは頭の隅に置いて頂くとして、めでたく入学されたのですから、大学生活を楽しむことです。勉強ばかりでなく、スポーツに健全なる遊びにそれぞれ打ちこむことが、若さの特権であると思います。

運動やりすぎて勉強が出来なかったというのは、単なるエクスキューズに過ぎません。一つに集中すると、もう一つに悩まされる。二兎追いかけるとなる。

「人間の生命を尊ぶ」ということは、絶対の根源、基本であることを、決して忘れないで下さいと、「医の実践を志さん」の最後で、医学を学ばれました。そこで一人のために活し、この人のために活きる医学の本髄」というドイツの内科医フーフェランドの言葉「扶氏戒」という額を、日と、切に願う次第です。

御子柴　克彦博士（生理48回）

日本学士院賞を受賞



御子柴克彦博士（48回生理）は平成二十一年度日本学士院賞を受賞する旨、去る三月二十一日天皇陛下臨席の行幸啓を仰ぎ、授賞式が挙行されることが決定した。

これまでに生理学出身の藤元一郎教授（昭和二年度）、六月二日に発表され、六月二